

◆ 目黒区 ◆

中小企業の景況

令和2年度第3・四半期
(令和2年10～12月)



目黒区 産業経済部 産業経済・消費生活課

目 次

1. 都内中小企業の景況	1
2. 目黒区内中小企業の景況（令和2年10～12月期）	2
(1) 今期の特徴点	2
(2) 今期の景況と来期の見通し	4
製造業	4
卸売業	8
小売業	11
サービス業	14
建設業	17
(3) 調査員のコメント	20
3. 日銀短観／東京都と目黒区の企業倒産動向（令和2年12月）	23
4. 特別調査「新型コロナウイルスの感染拡大を受けた中小企業の対応について」	27
5. 中小企業景況調査 比較表・転記表	29

調 査 の 概 要

1. 調査時期 令和2年10月～12月期（四半期毎実施）
2. 調査方法 面接聴取調査
3. 調査の対象と回収状況

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製 造 業	－	74
卸 売 業	－	21
小 売 業	－	37
サ ー ビ ス 業	－	46
建 設 業	－	31
合 計	－	209

※新型コロナウイルス感染拡大にともない、調査にご協力いただけない事業所が多数生じていることから、「調査対象事業所数」は把握不能となっております。

調査実施機関 一般社団法人東京都信用金庫協会
分析実施機関 株式会社東京商工リサーチ

1. 都内中小企業の景況（令和2年10～12月期）

（一般社団法人 東京都信用金庫協会調べ）

景況は足踏み状態 先行き不透明で回復は遠く

都内中小企業景況・6業種合計 DI



業況判断 DI（季節調整済、「良い」企業割合－「悪い」企業割合）は－43.6（前期は－43.9）と前期に比べ0.3ポイントの改善にとどまり、新型コロナウイルス再燃の影響を受け、落ち込み状態から抜け出せず足踏み状態となった。

業種別でも、全業種で大きな変化はなく、前期同様の厳しさが続いて停滞した。

来期は、製造業・卸売業・サービス業・建設業でわずかに持ち直すものの、小売業においては今期並の低調感で推移し、不動産業は更に厳しさを強めると予想している。

	前 期	今 期	増 減	来 期 予 想	今期との増減
製 造 業	-49.4	-49.9	-0.5	-44.4	5.5
卸 売 業	-49.5	-50.1	-0.6	-47.0	3.1
小 売 業	-49.4	-48.2	1.2	-46.7	1.5
サ ー ビ ス	-46.6	-46.4	0.2	-40.3	6.1
建 設 業	-26.4	-24.9	1.5	-22.4	2.5
不 動 産 業	-24.2	-24.3	-0.1	-26.4	-2.1
総 合	-43.9	-43.6	0.3	-40.0	3.6

<製造業>

業況は、前期見通しでは若干の改善を予想していたものの、依然回復せず、8期連続で前期を下回った。売上額・受注残・収益については、前期並の減少・減益が続いた。価格面では販売価格・原材料価格ともに変動なく推移した。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「売上の停滞・減少」、「同業者間の競争の激化」の順となり、重点経営施策の上位2位も前期同様に「販路を広げる」、「経費を節減する」の順となっている。

来期の業況は売上額・受注残・収益ともに、減少・減益幅が縮小し改善すると見ている。

<卸売業>

業況は、化学製品において持ち直しの動きが見られたものの、全体では前期同様に悪化状態で低迷し、厳しさが続いた。売上額は前期同様に推移し、収益は数値がわずかに改善したが、低水準で続いた。価格面では販売価格・仕入価格ともに前期並の低下基調で推移した。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「売上の停滞・減少」、「同業者間の競争の激化」の順となり、重点経営施策の上位2位は「販路を広げる」、「経費を節減する」の順となっている。

来期の業況は、水面下ながらわずかに持ち直す見ている。売上額・収益ともに改善すると予想している。

<小売業>

業況は、木材・建築材料、医薬品・化粧品など一部で改善されつつあるものの、新型コロナウイルス再燃の影響を受け、売上額・収益は横ばいで、全体としては前期同様の悪化水準で推移した。価格面では、販売価格は前期並に推移し、仕入価格は着地を見せた。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「売上の停滞・減少」、「同業者間の競争の激化」の順となり、重点経営施策の上位2位も「経費を節減する」、「品揃えを改善する」と続いている。

来期の業況は、来年度に向けて景気浮揚策を期待し緩やかな改善を予想しているものの、売上額・収益については今期並の低調感で推移し、回復度は鈍い見ている。

<サービス業>

業況は洗濯・理容・美容を除きわずかに持ち直したものの、全体では前期と変化なく足踏み状態となった。売上額・収益については「Go To キャンペーン」等の効果によりわずかに上向いたが、11月中旬から表面化したコロナ感染拡大第3波の影響により、大幅な改善には至らなかった。価格面では料金価格は下降を強め、材料価格は着地を見せている。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「売上の停滞・減少」、「同業者間の競争の激化」の順となり、重点経営施策の上位2位は「経費を節減する」、「販路を広げる」の順となっている。

来期は売上額、収益が持ち直し、業況は改善が見られるとの期待と予想をしている。

<建設業>

業況は、個人からの仕事請負について前期に引き続き若干の改善が見られたものの、全体では前期ほどの回復は見られなかった。売上額・受注残・施工高・収益ともに前期並の減少・減益で推移している。価格面では請負価格は変化なく、材料価格は着地を見せている。

経営上の問題点の上位2位は「売上の停滞・減少」、「同業者間の競争の激化」の順となり、重点経営施策の上位2位は前期同様に「経費を節減する」、「販路を広げる」の順となっている。

来期の業況はわずかに改善し、緩やかな回復が続くと予想している。売上額・受注残・施工高・収益についても減少・減益幅が縮小すると見ている。

<不動産業>

前期回復の動きをみせた業況は、前期同様の水準で足踏み状態となった。売上額・収益についても前期並のまま横ばい状態が続いている。価格面では販売価格は下降傾向が持ち直し、低下状態にあった仕入価格は戻りつつある。

経営上の問題点の上位2位は「売上の停滞・減少」、「同業者間の競争の激化」の順となり、重点経営施策の上位2位は「情報力を強化する」、2位に前期より増した「販路を広げる」が「経費を節減する」と同率で続いている。

来期の業況は再び悪化すると予想している。売上額・収益は今期並の減少・減益で推移すると見ている。

【注】

○D.I (Diffusion Index ディフュージョン インデックス の略)

D.I (ディーアイ) は増加 (又は「上昇」「楽」など) したと答えた企業割合から、減少 (又は「下降」「苦しい」など) したと答えた企業割合を差し引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○ (季節調済) D.I・・・本調査における D.I は季節調済 D.I を使用しています。

季節調済とは、期ごとに季節的な変動を繰り返す D.I を過去 5 年間まで遡って季節的な変動を除去して加工した D.I 値です。修正値ともいいます。

○傾向値

傾向値は、季節変動の大きな業種 (例えば小売業) ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方角をみる方法です。